

六甲山自然案内人の会平成25年11月度定例観察会報告書

実施日 : 平成25年11月10日(日)
担当班 : 2班
コース : 太山寺山門～太山寺北原生林～帝釈観音堂前～山頂～太山寺山門前バス停
参加人数 : ビジター3名 会員21名 計24名
テーマ : 太山寺の森(照葉樹林の原生林)を歩く

概要

太山寺北側の背山には照葉樹林の原生林が残っている。北面のコジイを中心とした植生及び南面のウバメガシを中心とした植生を観察した。

解説事項

太山寺について

天台宗の寺、三身山太山寺は、藤原鎌足(大化改新の「中臣鎌足」)の孫で、藤原不比等の子、^{うまかい}宇谷(聖武天皇の皇后光明子とは異母兄妹)が建立したとされる。

本堂は国宝で、国の重要文化財は仁王門、阿弥陀如来像をはじめ18ある。かつて41坊あった塔頭は現在5坊になっている。



山門について

山(三)門とは禅宗伽藍の仏門。三門とは三解脱門の意とされる。

禅寺一山の正門を意味し、転じて仏寺自体の象徴的呼称としても用いられる。

また、ここの仁王像には玉眼がはめ込まれている。



樹冠について

樹冠とは木の頂点にある枝葉の集合体のこと。木がお互いに譲り合って離れているように見えるが、これはお互いに相手の発芽や枝の生長を抑制するエチレンガスを出しているからだと言われている。

コジイの高木が沢山あり、上を見上げると葉をつけた枝が広がり樹冠が確認できた。



ムクノキとエノキの稚樹がツブラジイ群落の林床に生えている理由の推測

ムクノキとエノキの実には鳥が好むことから、所謂鳥散布による種子散布により種子がこの地に運ばれたと考えられる。

また、付近に大木の倒木があることから、その大木が倒れたことによって樹冠にギャップが生じ、光が差し込んできたことによってその種子が発芽したものと推測される。

観察した樹木

アオキ	アカシデ	アキニレ	アベマキ
アラカシ	イスノキ	イタビカズラ	イヌビワ
ウバメガシ	エノキ	カクレミノ	カゴノキ
カナメモチ	サカキ	クロガネモチ	クロバイ
コナラ	サネカズラ	シャシャンボ	ソヨゴ
コウヤボウキ	タイミンタチバナ	タカノツメ	ツブラジイ
テイカカズラ	ナナミノキ	ネジキ	ヒサカキ
ヒメユズリハ	ムクノキ	モチノキ	モッコク
ヤブツバキ	ヤブニッケイ	ヤブムラサキ	ヤマモモ
リョウブ	リンボク		





ウバメガシ



サネカズラの実

後記

朝起きた時点では天候は暴風雨状況で中止を考えたほどだったが、幸い午前中に雨も上がり予想外のビジター3人の参加者を得て観察会を行った。

非常に狭いエリアではあるが、照葉樹林の極相林ならではの珍しい樹木を観察することができ有意義な観察会であった。